

復興へ一歩前進 2月大雪

ミニトマト初出荷 JAしずない 道知事に報告



ミニトマトを高橋知事(右から2人目)に手渡す西村組合長(同3人目)
(21日、札幌市で)

日高管内JAしずないの西村和夫組合長は21日、札幌市の北海道庁を訪れ、高橋はるみ知事に

JAの特産ブランドミニトマト「太陽の瞳」の初出荷を報告した。JA管内は2月の大雪で、新規

就農者のビニールハウスが被災。復興に向けた出荷となった。西村組合長は「農家が一生懸命作った」と説明。高橋知事は「素晴らしい真つ赤なミニトマト。おめでとうございます」と応じた。

JAはミニトマトの道内有数の産地。2018年は栽培面積約28万を計画する。2月の大雪でビニールハウス約240棟が、倒壊などの被害を受けた。JAによると、被災したハウスのうち約130棟が定植に向けた復旧の最中で、出荷は9月ごろになる見通し。

西村組合長は、JA管内の新規就農者や研修生が作ったミニトマトを高橋知事に贈呈した。今後の対策について高橋知事は、共済の加入促進やハ

ウス内の暖房設置、冬場のビニールの取り外しなどの対策を講じるよう要請した。西村組合長は大野克之町長らも同行し「(被害を)想定して対応できるよう、JAも力を入れたい」と話した。JA管内の新ひだか町・大野克之町長らも同行した。